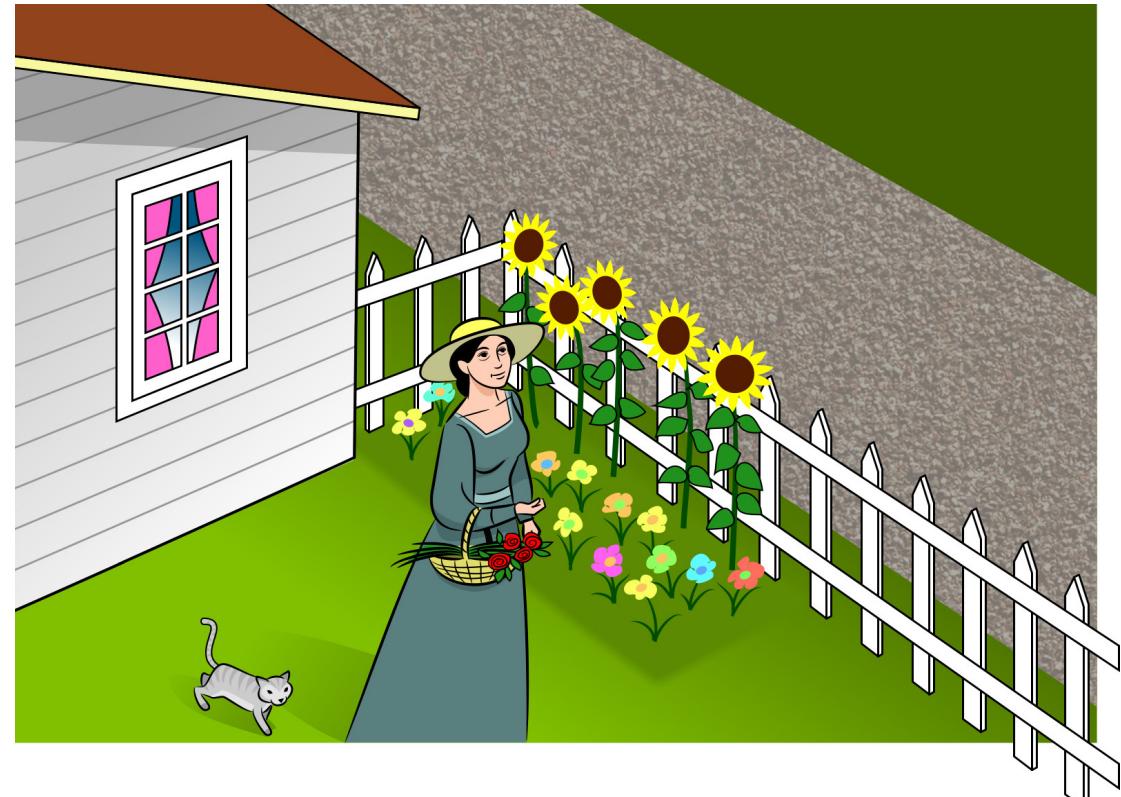
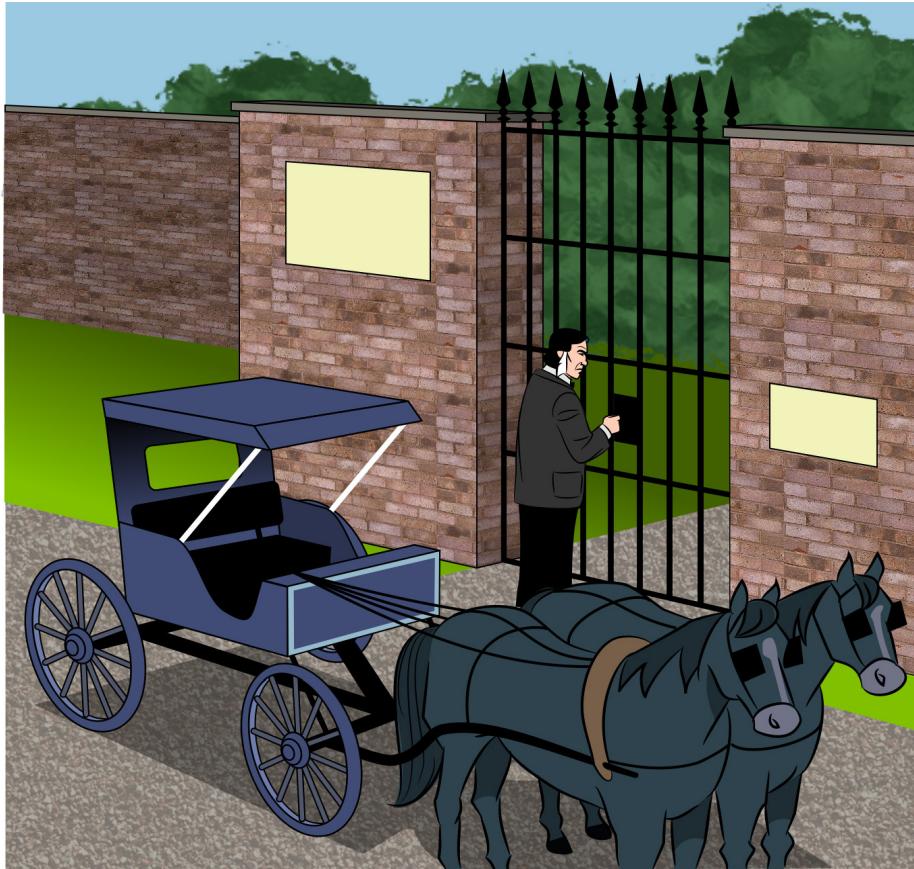


# ひとかたまりのパン

昔ある所に、ヘンリー・マーサーというお金持ちの男の人がいました。彼は、神を信じないと言っていました。「私は無神論者だ。自分とお金以外は信じない。」というのです。彼は高慢な人でしたが、ちっとも幸せではありませんでした。



さて、ヘンリーが住んでいる通りのすぐ先には、ジャネット・スミスという貧しい女の人が住んでいました。ジャネットは、イエス様を深く愛していました。貧しいので、大した物は持っていましたが、ジャネットには、神様への深い信仰がありました。彼女は、陽気でおだやかな心の持ち主で、他の人達と接する時も、いつも明るい面を見ようと努めしていました。また、イエス様の話をよくしていました。

ジャネットの近所に住んでいるお金持ちのヘンリーは、彼女にはお金や物なんてほとんどないのにどうして幸せなのか、全く理解できませんでした。また、どうしてジャネットがイエス様を愛しているのかも理解できませんでした。事実、ジャネットが幸せであることをねたましくさえ思っていました。それで、彼女の幸せを台無しにしようと、たびたび意地悪をしていました。

ある暑い日、ジャネットが市場で買った食料品をかかえてほこりだらけの道を歩いていると、立派な馬車に乗ったヘンリーが通りがかりました。ジャネットに近づいてくると、速度を落として声をかけました。「ごきげんはいかがですか？今日はお暑いですね。どうして神様は、あなたのために少しばかり気温を下げてくださるんですかねえ？」そして、自分の冗談がさもおかしいかのように笑うと、彼女を馬車に乗せてあげることもなく、自分は何て賢いんだろうと思いながら、さっさと行ってしまいました。

いろいろと困難はありましたが、それでも、ジャネットの心の安らぎと神様の愛への信仰は、決してなくなることはありませんでした。



ある日、ヘンリーが犬と散歩しながらジャネットの家のそばを通りがかると、彼女はだれかに話しかけているようでした。一体だれと話しているんだろうと思いつながら、ヘンリーはジャネットの家の開いた窓のそばに近づいて、びっくりしました。ジャネットは祈っていたのです。

「主よ、私には、今日食べるためのパンがありません。また、パンを買うためのお金もありません。あなたは、ピリピ人への手紙の4:19で、私のいっさいの必要を満たしてくださると約束されました。どうか、私を気にかけ、必要な食べ物を供給してください。イエス様のお名前で祈ります。」

いっしゅん、ヘンリーの心は動かされました。けれどもすぐに、にんまりと笑いを浮かべました。隣人へのいたずらを思いついたのです。ヘンリーは急いでお店へ行くと、大きなパンを買いました。そして、ジャネットの家にもどると、開いた窓の外から、そのパンを部屋の中に投げ込みました。

ジャネットは大喜びです！神様が、そんなにもすばやく祈りに応えてくださったのですから。すぐに、ジャネットはイエス様に感謝し始めました。「イエス様、このパンを感謝します。求めただけで、あなたはすぐに私の必要なものを与えてくださいました。」

その時です。窓の外から、ばかにした笑い声が聞こえてきました。ヘンリーが開いた窓から顔をつっこんで、声高に言いました。「ハッハッハ！神様なんかじゃなかったぞ。投げ込んだのは、この私だ！」

ところが、ヘンリーのがく然としたことに、ジャネットはただほほえんで、神様への賛美を続けました。「素晴らしいイエス様、感謝します。たとえあなたがヘンリー・マーサーをもういなければならなかつたとしても、あなたはこのパンを送り届けてくださいました！」

ヘンリーの顔は、真っ赤になりました。またしても、彼の悪だくみは失敗に終わったのです。彼はすっかり腹を立て、じだんだをふみながら、行ってしまいました。けれども内心、もしかしたら神様は、本当に自分を使ってジャネットの祈りに応えたのかもしれないと思わずにはいられなかつたのでした。

